記者発表資料

平成28年12月20日
国土交通省東北地方整備局
宮城県
福島県
仙台市
東日本高速道路㈱東北支社

常磐自動車道　全線開通1年半後のストック効果及び交通量について
～地域経済の復興に向け、企業立地拡大、観光活性化へ引き続き効果発現～

※ストック効果：整備された社会資本が機能することによって、継続的に中長期的に得られる効果

＜ストック効果＞

○企業立地増加・雇用拡大により地域経済の復興を牽引

・山元～亘理間が開通した平成21年以降、企業立地数が過去最高を記録

・平成27年1月以降、
常磐道沿線地域の企業立地による経済効果　：約1，940億円
福島県浜通りの企業立地による新規雇用者数：約1，500人

○福島・宮城の観光交流人口が増加し大きな経済効果を誘発

・常磐道沿線の主要観光地では、県外からの来訪者の増加もあり、
観光入込客数が震災以降最高を記録、その経済効果は約80億円

＜交通状況＞

○開通1年半後の交通量は開通直後以降も堅調に推移

○暫定2車線区間（いわき中央～岩沼）の日平均交通量は、
8，800～20，900台/日

常磐自動車道　常磐富岡IC～浪江IC間（14.3km）が平成27年3月1日に開通し、
常磐自動車道は約350km（東京～仙台）が全線開通しました。

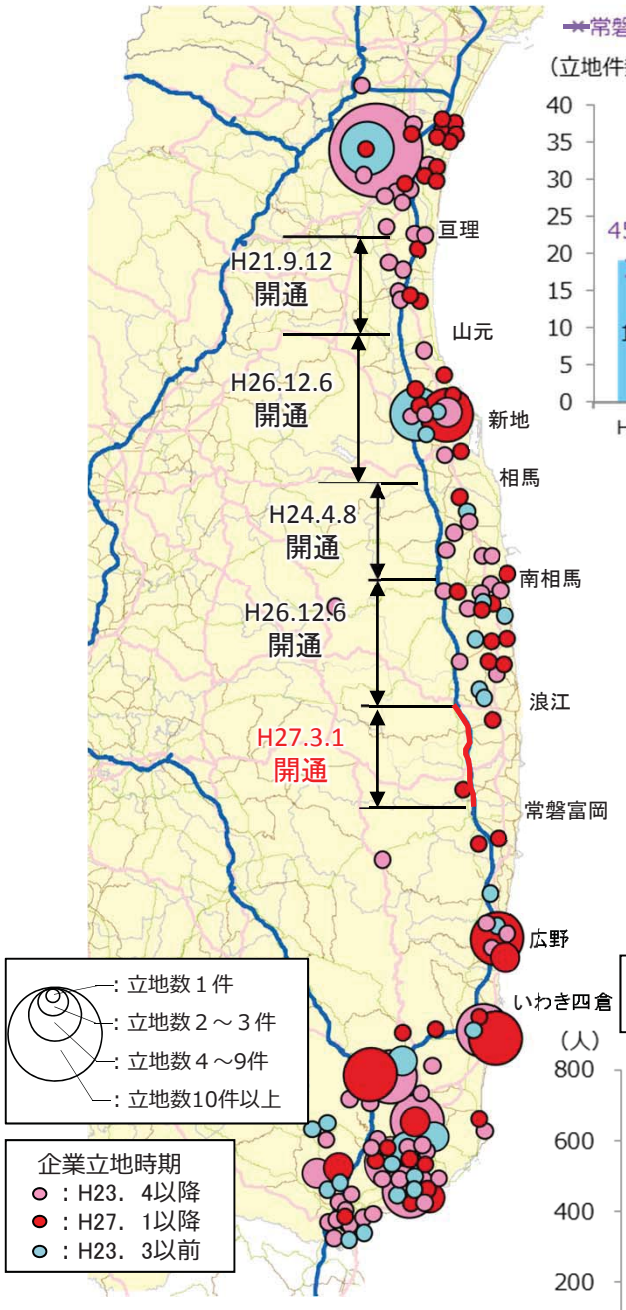
（お問い合わせ先）
東日本高速道路㈱ 東北支社 広報課(報道担当)　　TEL. 022－217－1706
（受付時間／平日9:00～17:25）

※本資料については、国土交通省記者会、国土交通省建設専門紙記者会、国土交通省交通運輸記者会、青森県政記者会、岩手県政記者クラブ、秋田県政記者会、宮城県政記者会、山形県政記者クラブ、福島県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会にお配りしています。

企業立地増加・雇用拡大により地域経済の復興を牽引

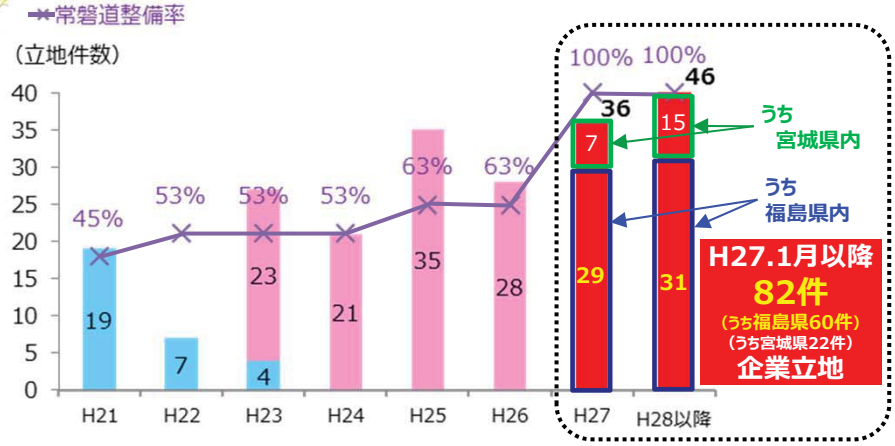
■現時点で、福島県及び宮城県南部沿岸地域の企業立地数は、最高記録を更新中
■平成27年1月以降の企業立地投資額による経済波及効果は約1，940億円
■福島県浜通り地域では、平成27年1月以降の企業立地により約1，500名の新規雇用発生の見込み
■浜通り地域の企業立地が地域経済の復興を牽引

▼常磐道沿線地域での工場増新設の動き



出典：福島県企業立地課
宮城県産業立地推進課
※企業立地年は、届出時（建物着工時）の操業予定年を示す

▼常磐道沿線地域の工場増新設件数の推移

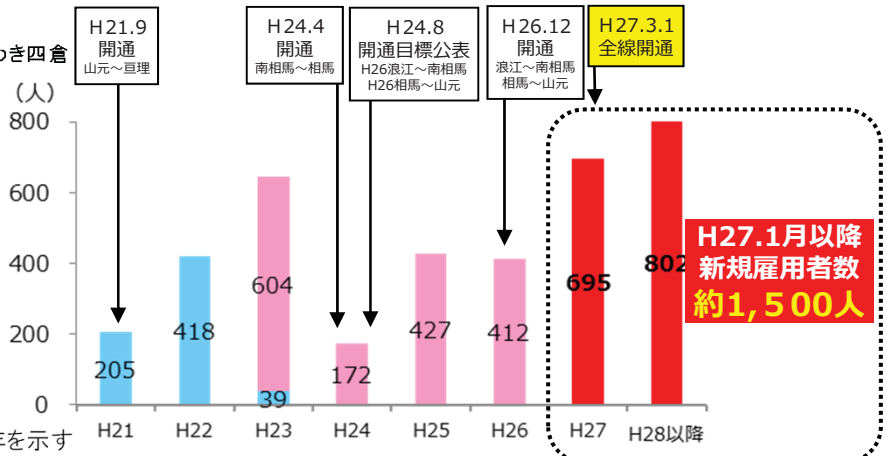


常磐道沿線地域：いわき市、南相馬市、相馬市、新地町、飯舘村、
広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、
双葉町、浪江町、葛尾村、名取市、岩沼市、
亘理町、山元町
※常磐道整備率は、各年4月1日時点

平成27年1月以降の
常磐道沿線地域の企業立地82件による
経済波及効果は約1，940億円(H27.1～H30.7)

※福島県・宮城県内の立地企業（福島県・宮城県調べ）の投資額（予定額も含む）を基に算出

▼福島県浜通り地域における工場増新設に伴う新規雇用者数



資料：福島県企業立地課
浜通り地域：いわき市、南相馬市、相馬市、新地町、飯舘村、広野町、楢葉町、富岡町、川内村、大熊町、双葉町、浪江町、葛尾村
※新規雇用者数は、届出時（建物着工時）における予定人数

平成27年1月以降の
福島県浜通りの企業立地60件による
新規雇用者数は約1，500人

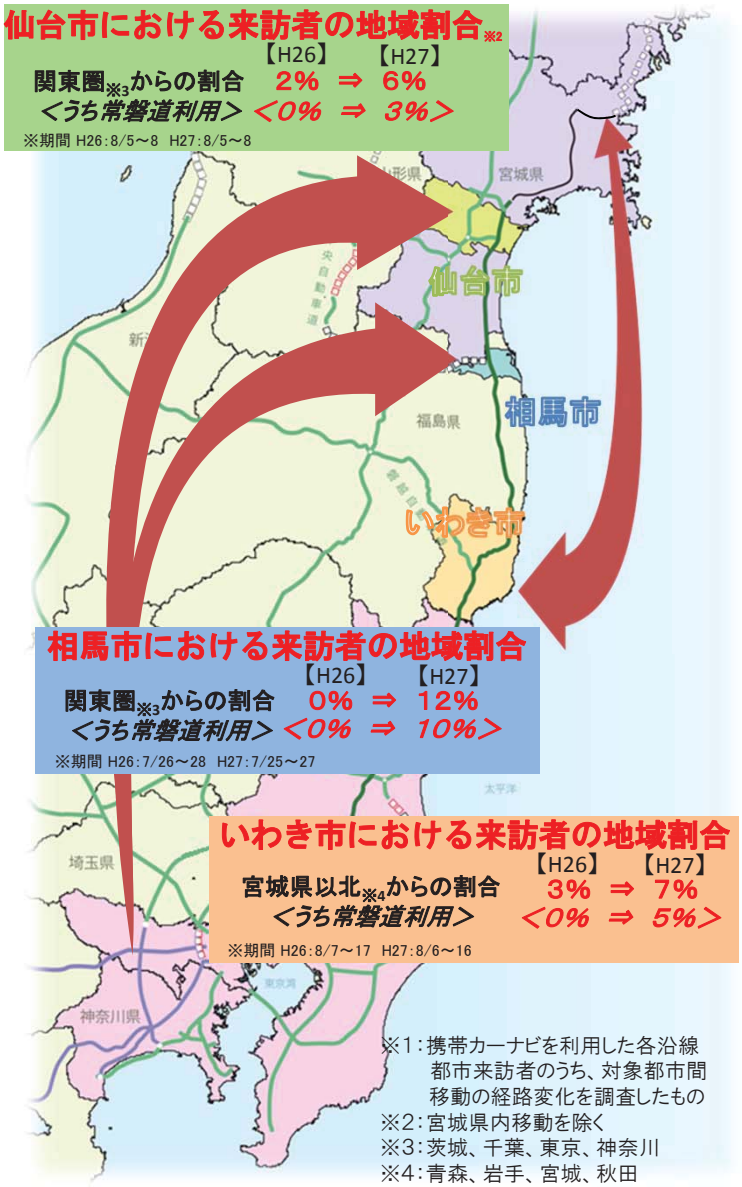
福島・宮城の観光交流人口が増加し大きな経済効果を誘発

■宮城・福島県の常磐道沿線の主要観光地・イベントでは、観光入込客数が震災以降最高を記録

■常磐道を利用した県外からの来訪者の割合が増加

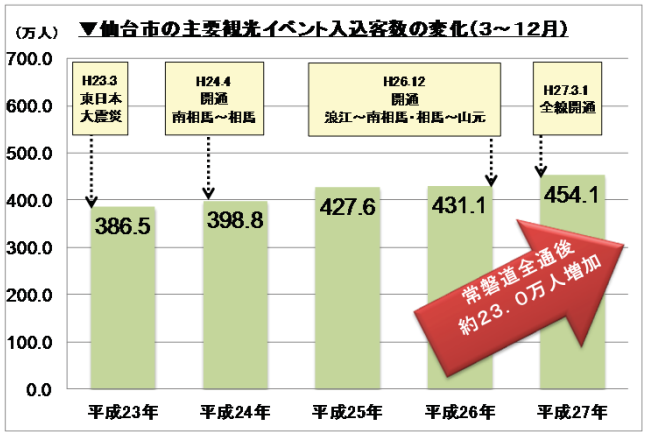
■常磐道開通後の観光消費が増加したことによる経済波及効果は約80億円

常磐道沿線各都市への観光来訪者割合の変化※1



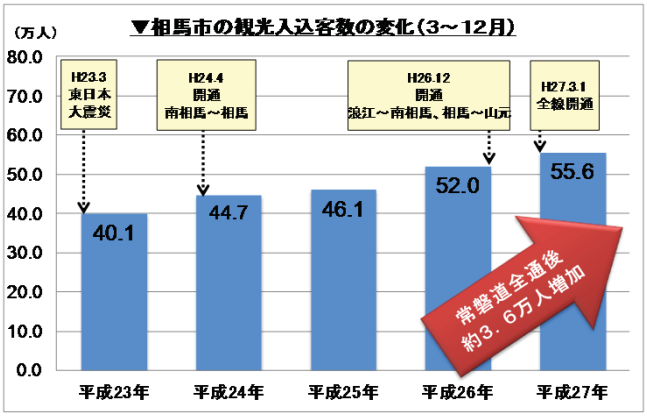
※1：携帯カーナビを利用した各沿線都市来訪者のうち、対象都市間移動の経路変化を調査したもの
※2：宮城県内移動を除く
※3：茨城、千葉、東京、神奈川
※4：青森、岩手、宮城、秋田

仙台市主要観光施設・イベントの入込客数が23.0万人増加



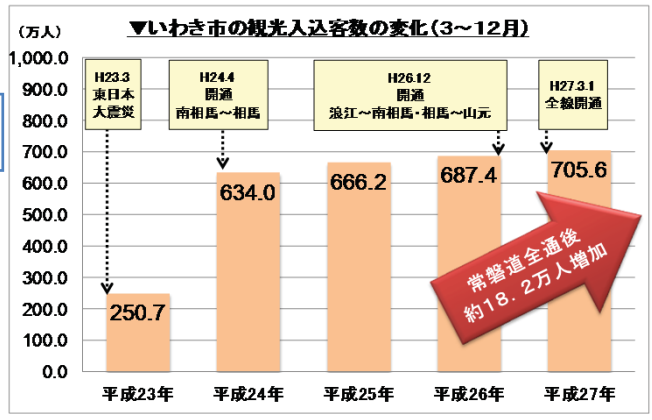
出典：仙台市

相馬市の観光入込客数が3.6万人増加



出典：相馬市

いわき市の観光入込客数が18.2万人増加



出典：いわき市

3地域の観光来場者が約45万人増加※5

※5：H26とH27の3～12月を比較

観光消費額が約45億円増加

常磐自動車道の開通後の観光消費の増加による経済波及効果

約80億円

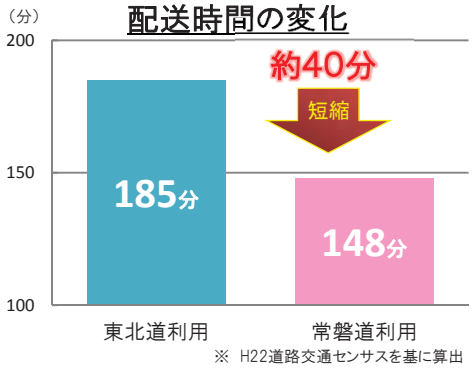
物流効率化や高速バスの定時性確保に寄与

■仙台を拠点とする物流企業では、仙台～水戸間の配送時間が1往復当たり約80分短縮
■時間短縮により1人のドライバー月あたり配送可能回数が2回増加し、生産性が10%向上

▼仙台～水戸間の配送ルート

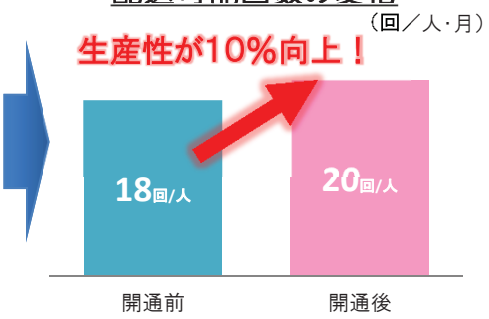


▼仙台～水戸間の配送時間の変化



※ H22道路交通センサスを基に算出

▼仙台～水戸間の配送可能回数の変化



■物流会社の声



○仙台市から水戸市へ配送している。常磐道全線開通を機に、配送ルートを東北道から常磐道へ変更し、1回の配送時間が往復約80分短縮
○ドライバーは1ヵ月の拘束時間に制約があるため、1人あたりの配送可能回数は、18回/月が限界であったが、開通後は20回/月に増加
○常磐道の開通による物流効率化は、課題であるドライバー不足にとっても有効であり、目に見えない効果も大きい

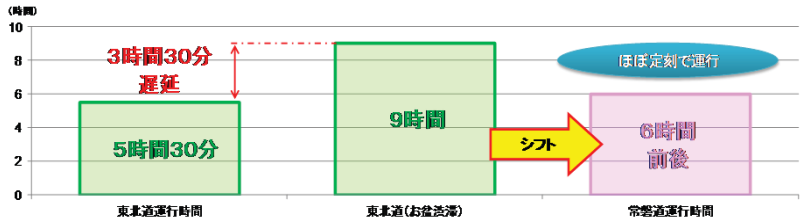
【トピックス】東北道の渋滞・通行止め時に高速バスが常磐道を代替路として活用

■仙台⇔東京方面を結ぶ高速バスは毎日約50往復100便、1ヶ月間に約5万人以上※を運ぶ大動脈
■お盆・ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸには東北道の渋滞に巻き込まれ、定時性を確保することが困難（最大3.5時間の遅れ）
■常磐道全線開通以降、東北道の渋滞状況に応じて一部の便が常磐道に迂回運行を行い定時性を確保

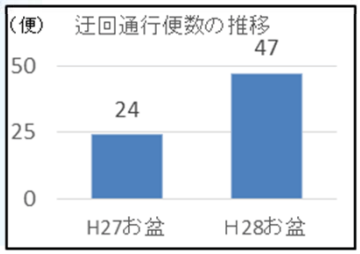
※臨時便を除く、東京、千葉、神奈川発着を対象



定時性確保のため交通状況に応じて常磐道にシフト



お盆の交通が東北道から常磐道にシフト





■バス事業者の声

○常磐道全線開通以降、東北道の渋滞状況を見ながら、一部の便を常磐道に迂回運行し、定時性を確保した。
○東北道と常磐道の2本の軸ができたことで、運行の安心感が向上するとともに、定時性の確保にも寄与している。

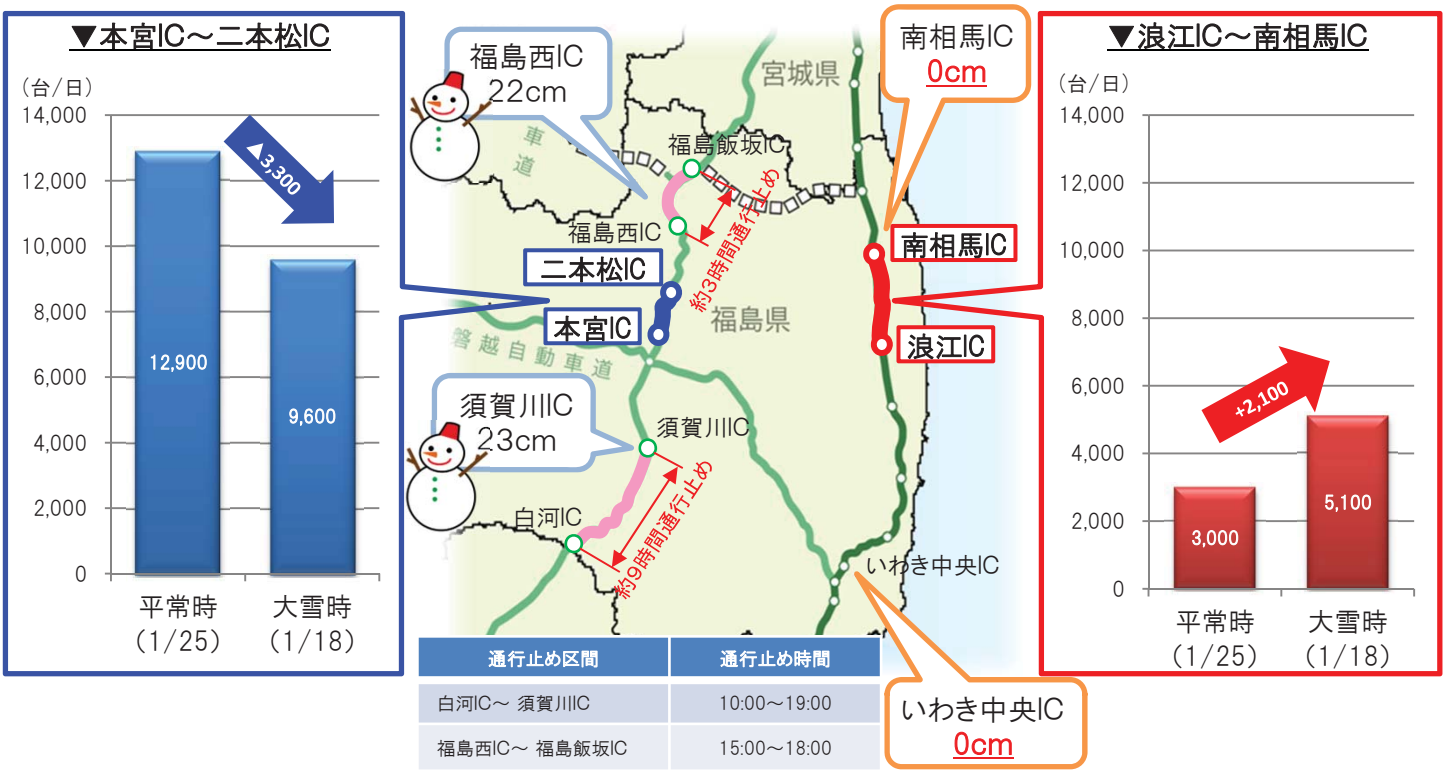
常磐道と東北道によるダブルネットワーク効果の発揮

■福島県浜通り地方は降雪が少なく、安定した気象状況

■冬期の常磐道は東北道に対し速達性に優れるとともに、移動時間の信頼性が高い路線

■H28.1.18大雪による東北道通行止め時、常磐道の大型車交通量が平常時に比べ約2,100台増加し、代替機能を発揮

▼平成28年1月18日の大雪時の大型車交通動向



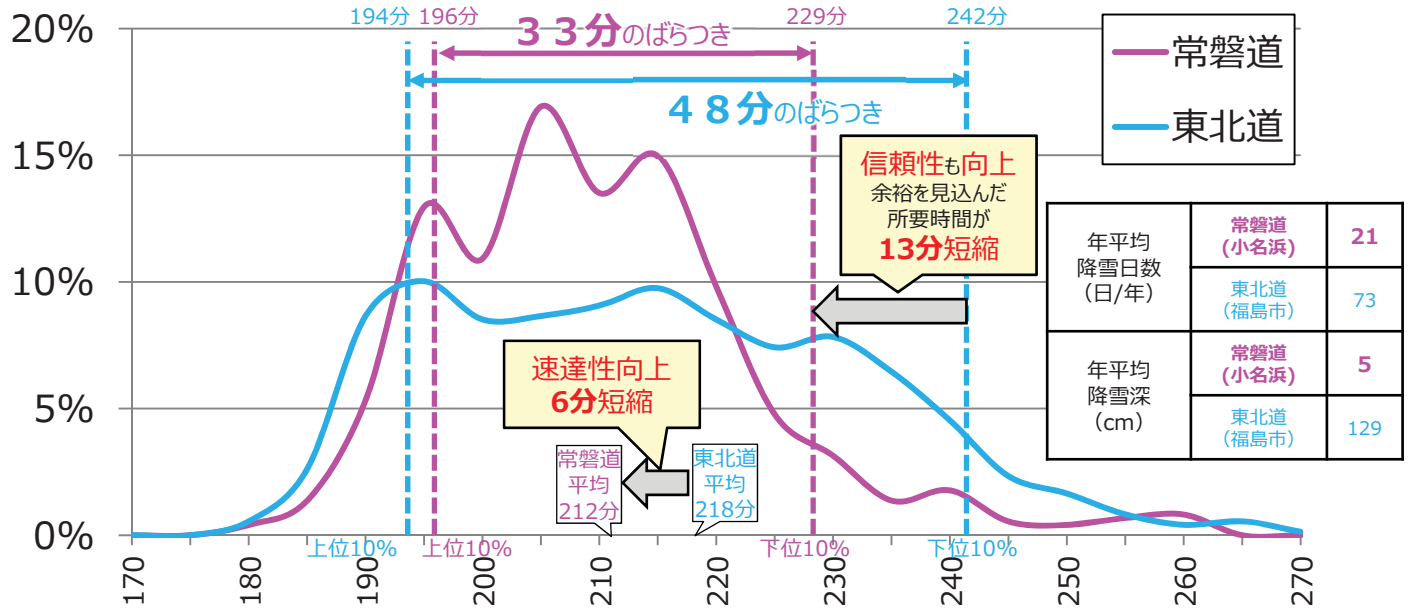
通行止め区間	通行止め時間
白河IC～ 須賀川IC	10:00～19:00
福島西IC～ 福島飯坂IC	15:00～18:00

【出典】交通量：NEXCO東日本データ
各ICの数値：H28.1.18の累計積雪深（NEXCO東日本調べ）

冬期の常磐道は速達性に優れているとともに、移動時間の信頼性が高い路線

▼常磐道・東北道の所要時間構成割合の変化

【出典】プローブデータ（H28.1.1～H28.1.31）



年平均降雪日数（日/年）	常磐道（小名浜）	21
	東北道（福島市）	73
年平均降雪深（cm）	常磐道（小名浜）	5
	東北道（福島市）	129

定義
所要時間：右記の区間における下り方向で所要時間データ（プローブデータ）を算出し、5分間間隔で所要時間の頻度を表示

東北道（川口JCT～仙台南IC）　約327km
常磐道（三郷JCT～仙台若林JCT）　約316km

地域の主要産業である「いちご産業」を支援

■山元いちご農園は、震災後の平成24年3月にオープン

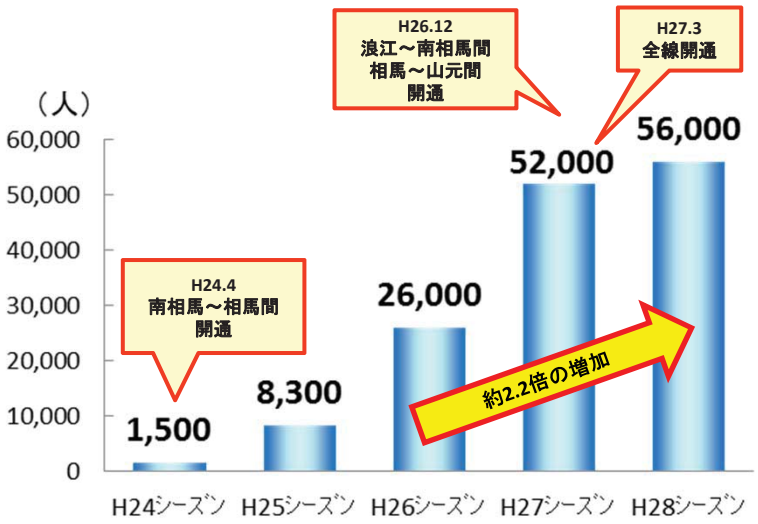
■常磐道の全線開通以降の「いちご狩りシーズン」には、来訪者が約2．2倍に増加し震災後最高の入れ込み客数を記録

■好調を受け、震災で失った山元ワインを5年ぶりに復活させ、地域の経済活性化に取り組む

▼山元いちご農園

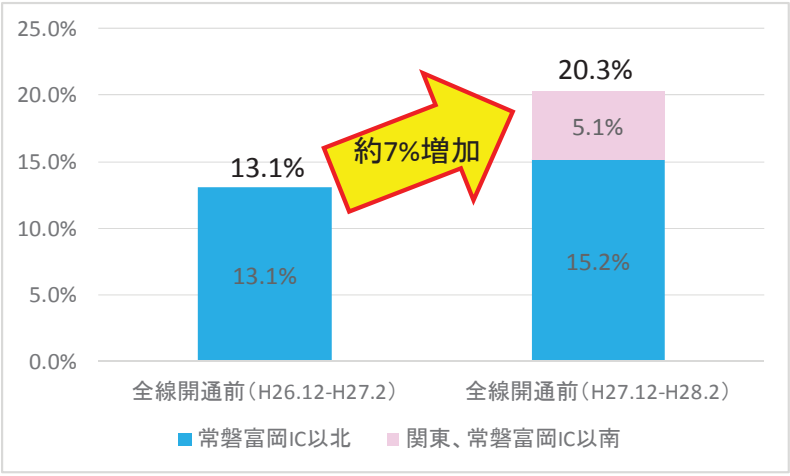


▼山元いちご農園のいちご狩り来客者数



※H24シーズン：H24.3～H24.5，H25シーズン：H24.12～H25.5，
H26シーズン：H25.12～H26.5，H27シーズン：H26.12～H27.5，
H28シーズン：H27.12～H28.5

▼山元ICにおける福島県・関東の常磐道沿線からの利用割合



※山元ICインター相互出入交通量：山元IC⇔福島県　常磐道いわき勿来IC～新地IC
茨城県・千葉県の全IC

【NEXCO東日本データ】

▼ 完成したワイン工場



建屋は平成28年8月に完成し、11月から稼働

撮影：仙台河川国道事務所

■山元いちご農園の声

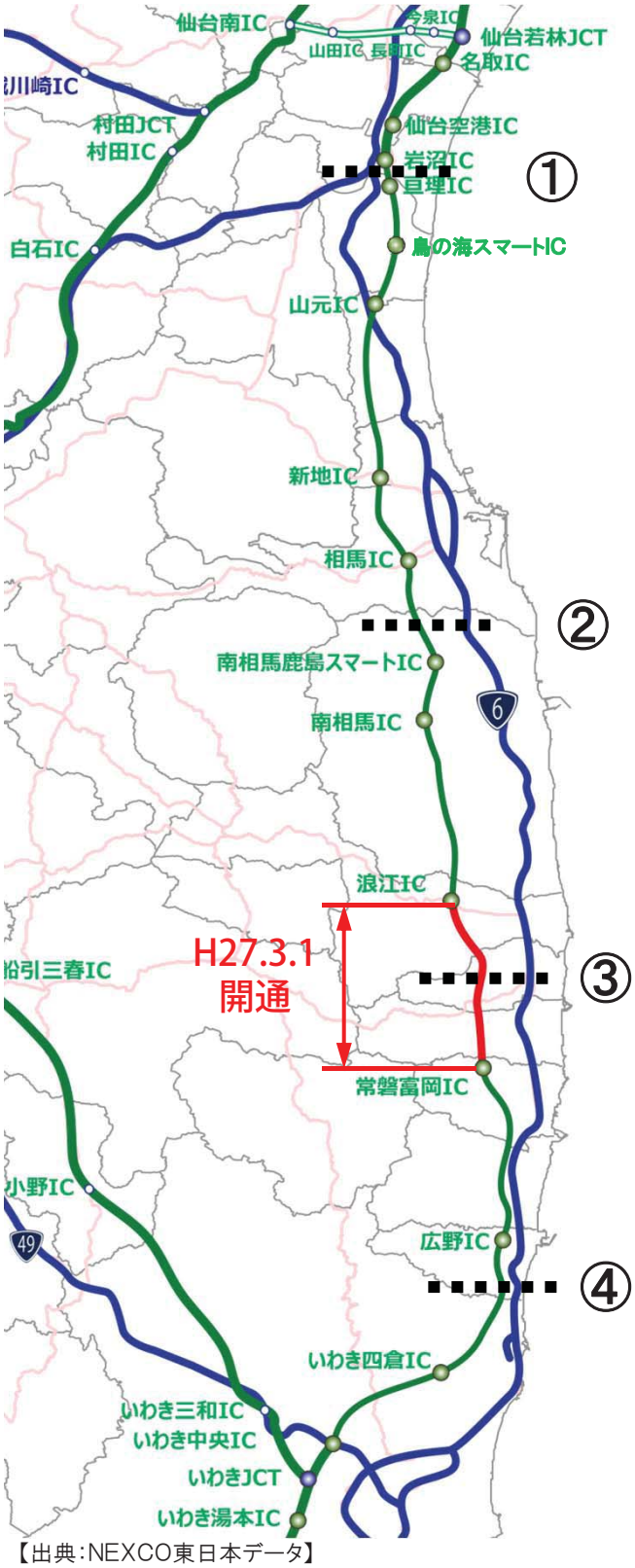
・常磐道の全線開通により、北東北3県、福島県、関東からの来客が増加するなど来客者の範囲が拡がっている。

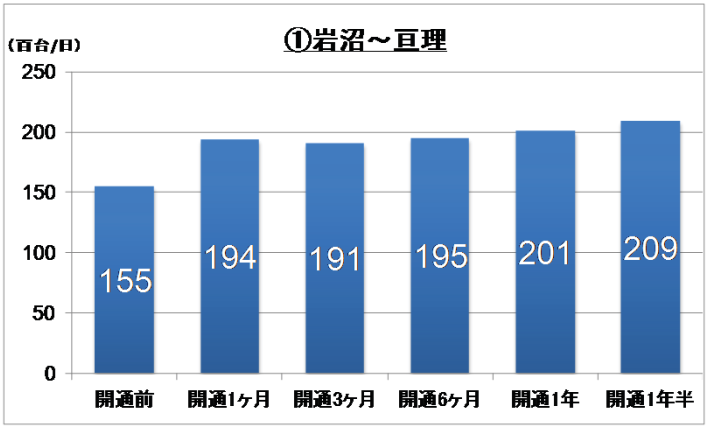
・敷地内に建設していたワイン工場は8月に完成し、11月稼働、12月より販売を開始。工場見学や試飲もできるようにして、来客者増を図っていきたい。

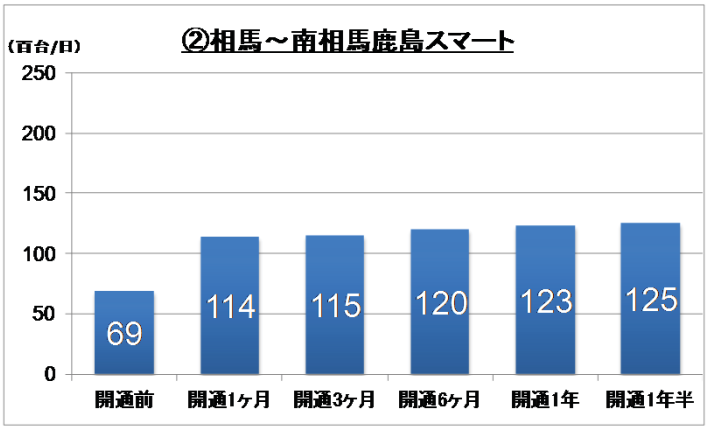
常磐自動車道の全線開通前後の交通状況

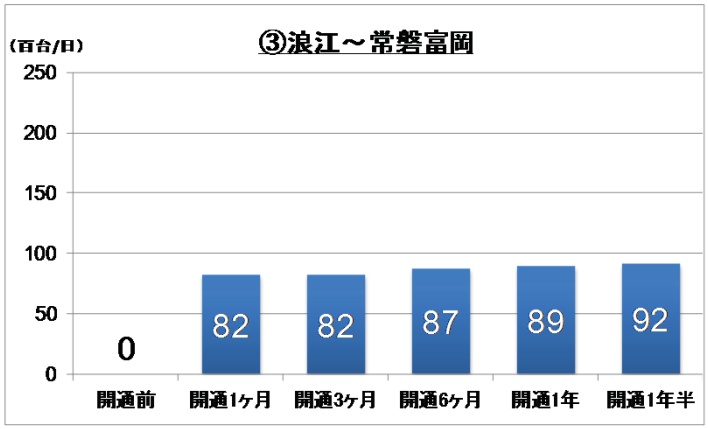
■開通1年半後の交通量は開通直後以降も堅調に推移

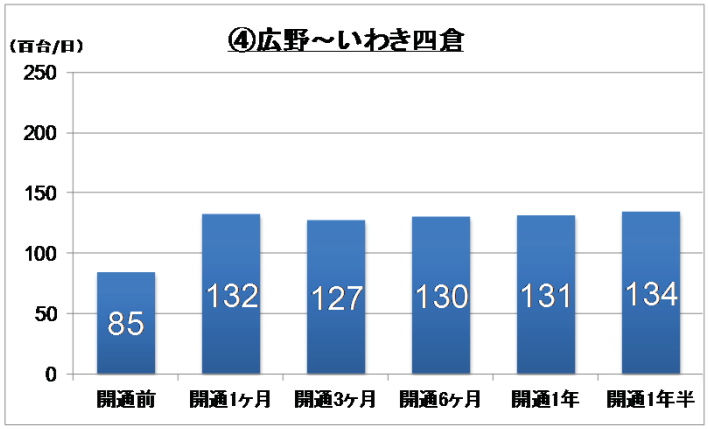
■暫定2車線区間(いわき中央～岩沼)の日平均交通量は、8，800～20，900台/日











【出典:NEXCO東日本データ】
- ·開　通　前:平成27年2月1日(日)～2月28日(土)
- ·開通1ヶ月:平成27年3月2日(月)～4月　1日(水)
- ·開通3ヶ月:平成27年3月2日(月)～6月　1日(月)
- ·開通6ヶ月:平成27年3月2日(月)～9月　1日(火)
- ·開通1年:平成27年3月2日(月)～平成28年3月1日(火)
- ·開通1年半:平成27年3月2日(月)～平成28年9月1日(木)

※上記期間の日平均値

常磐自動車道の区間別交通状況

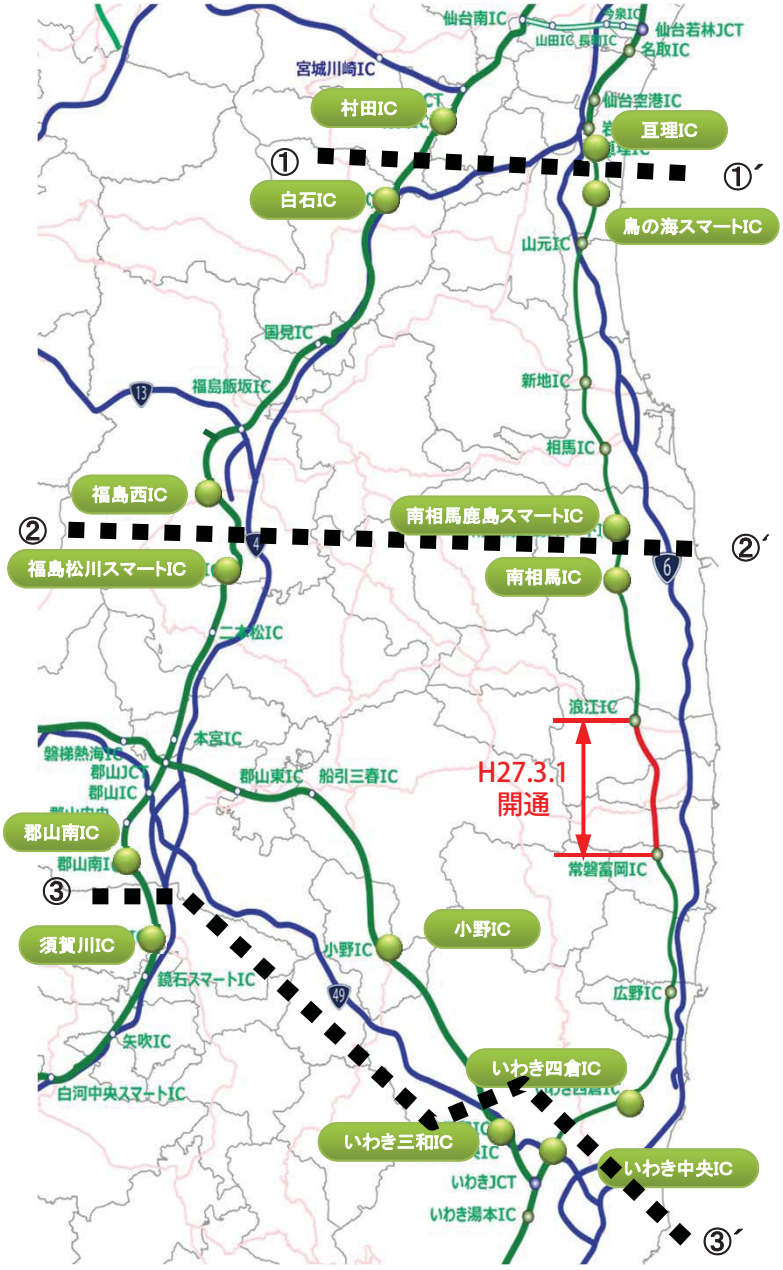
IC間	【①開通前】 断面交通量 （台/日）	【②開通1ヵ月】 断面交通量 （台/日）	【③開通3ヵ月】 断面交通量 （台/日）	【④開通6ヵ月】 断面交通量 （台/日）	【⑤開通1年】 断面交通量 （台/日）	【⑥開通1年半】 断面交通量 （台/日）
仙台若林JCT～名取	28,900	33,500	32,500	32,600	32,700	33,000
名取～仙台空港	23,000	27,300	26,300	26,600	26,800	27,200
仙台空港～岩沼	19,600	23,600	22,800	23,100	23,300	23,900
①岩沼～亘理	15,500	19,400	19,100	19,500	20,100	20,900
亘理～鳥の海スマート	11,300	15,000	14,700	15,000	15,300	16,000
鳥の海スマート～山元	11,300	15,000	14,700	15,000	15,300	15,800
山元～新地 【平成26年12月6日開通】	7,600	11,400	11,300	11,800	12,100	12,500
新地～相馬 【平成26年12月6日開通】	6,600	10,600	10,600	11,100	11,400	11,700
②相馬～南相馬鹿島スマート	6,900	11,400	11,500	12,000	12,300	12,500
南相馬鹿島スマート～ 南相馬	6,900	11,200	11,300	11,800	12,100	12,300
南相馬～浪江 【平成26年12月6日開通】	2,300	8,000	7,900	8,300	8,500	8,800
③浪江～常磐富岡 【平成27年3月1日開通】	—	8,200	8,200	8,700	8,900	9,200
常磐富岡～広野	4,100	9,400	9,200	9,500	9,600	9,900
④広野～いわき四倉	8,500	13,200	12,700	13,000	13,100	13,400
いわき四倉～いわき中央	8,000	12,100	11,600	11,900	12,000	12,100
いわき中央～いわきJCT	13,600	17,600	17,200	17,500	17,400	17,500

【出典：NEXCO東日本データ】
・開　通　前：平成27年2月1日（日）～2月28日（土）
・開通1ヶ月：平成27年3月2日（月）～4月　1日（水）
・開通3ヶ月：平成27年3月2日（月）～6月　1日（月）
・開通6ヶ月：平成27年3月2日（月）～9月　1日（火）
・開通1年：平成27年3月2日（月）～平成28年3月1日（火）
・開通1年半：平成27年3月2日（月）～平成28年9月1日（木）
※上記期間の日平均値

内陸部（東北道＋国道4号）と沿岸部（常磐道＋国道6号）の交通状況

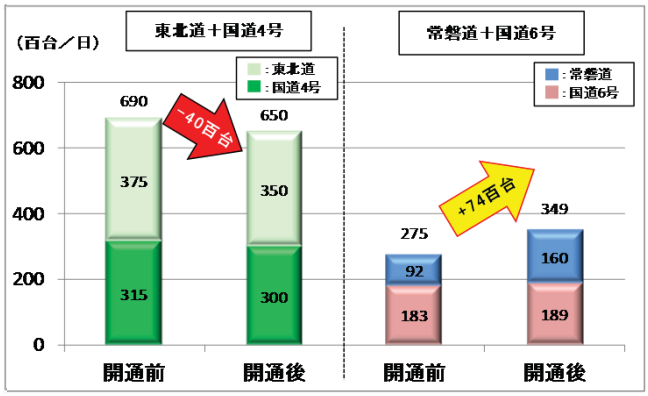
■内陸部（東北道＋国道4号）の交通量が減少（約1～4千台）、
　沿岸部（常磐道＋国道6号）の交通量が増加（約7～8千台）

■特に、内陸と沿岸部の高速ネットワークの交通量に大きな変化
　（東北道の交通量 ⇒ 約1～3千台減少、常磐道の交通量 ⇒ 約6～7千台増加）



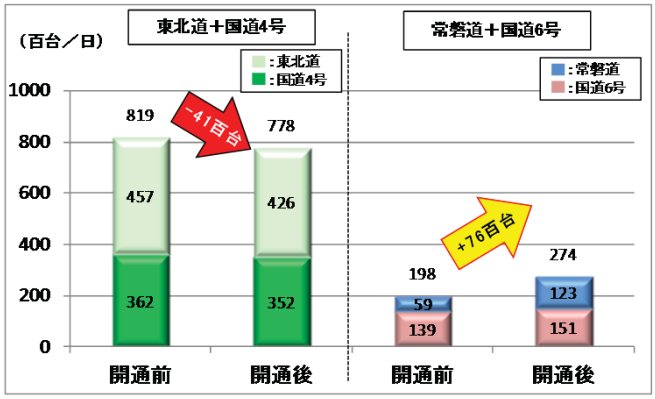
【出典：国土交通省東北地方整備局、NEXCO東日本データ】
・開通前：平成26年3月1日（土）～
　　平成27年2月28日（土）の日平均値
・開通後：平成27年3月2日（月）～
　　平成28年9月1日（木）の日平均値

①－①´断面



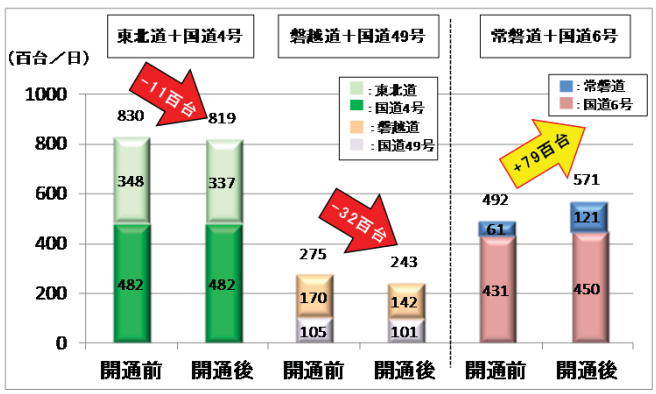
・東北道：村田IC～白石IC間
・常磐道：亘理IC～鳥の海スマートIC間

②－②´断面



・東北道：福島西IC～福島松川スマートIC間
・常磐道：南相馬鹿島スマートIC～南相馬IC間

③－③´断面



・東北道：郡山南IC～須賀川IC間
・磐越道：小野IC～いわき三和IC間
・常磐道：いわき四倉IC～いわき中央IC間

常磐道　暫定2車線区間の機能強化（4車線化・付加車線設置）

参考資料

■平成27年3月の全線開通後の交通量増加により、暫定2車線区間で速度低下がみられることや事故発生の状況を踏まえ、機能強化を目的に4車線化や付加車線の設置を公表（平成28年3月）

■現在、工場立地や設備増強の動きは好調であり、4車線化や付加車線の設置により、更に地域経済の復興を牽引することを期待

